

第4回新居浜市学校給食検討委員会会議録

平成25年12月11日(水)
13時30分～15時00分
新居浜市学校給食センター研修室

(1) 開会挨拶 検討委員会委員長

本日もお寒い中お集まりいただきありがとうございます。

本委員会も第4回を迎えました。前回まで3回の会を持ちましたが、様々な委員さんの立場からのご意見、また事務局の資料に基づき活発な話し合い、検討していただきました。今回はご案内のとおり、前回話し合いを持ちました、比較検討表の内容確認、アンケートの検討を主に行います。なお傍聴人の方にお願いたします。傍聴人には発言権がございませんので、静かにお聞きください。

- ・ 欠席委員1名、徳原委員(市民代表)。
- ・ 傍聴人5名

(2) 議事

1) 建設方式別メリット・デメリットの確認

資料に基づき事務局が説明し、前回の修正事項を確認する。

(委員長) 事務局から説明をお願いします。

(事務局) ○△×以外で、赤文字の所が前回からの修正箇所です。また除いたところもごさい。確認をお願いいたします。(修正箇所について説明する)

(委員) 「労災事故の危険性」で、自校方式では「事故の危険性が多い」となっており、×となっているが、センター方式と比べてそんなに変わらないと思う。

(事務局) ここ数年の事故発生件数を元にいたしました。センター方式はあくまでリスクの面としております。

(委員) 現在の自校方式調理場はその点で、危険ではあると思うが、新しくするとなった場合はその点も考慮に入れた、リスクの少ない調理場となると思うので、「事故の危険性も多い」という表現を、「事故の危険性もある」としてはどうか。

(事務局) では、自校方式は表現を変え、センター方式も危険性が同様にるので、○→△といたします。

(委員：異議なし)

2) アンケートの検討について

(委員長) 事務局より審議に移る前に提案があるようですのでお願いします。

(事務局) アンケートの検討に入ります前にご提案があります。前回、市P連代表の委員さんからアンケートの実施についてのご提案をいただきました。そこで本日、事務局にてアンケートの素案を出し、皆様に検討いただくこととしておりましたが、その後、委員長と事務局とで協議を行い、「保護者の皆様の意見を聞きたいとのことで、市P連代表委員からのアンケート要望についてはよくわかるが、この

検討委員会は、学校給食に関係する団体の代表として委員が選出されており、各委員さんの意見を尊重すべきであることから、検討委員会がアンケートを実施するとなれば、校長会、栄養職員会、調理員部会、医師会、また広くは市民のアンケートを取らなければならないこととなるのではないかと。また、アンケートを実施するのであればその結果も重視する必要性があり、検討委員会で審議する必要性はないのではないかと。との意見がありました。もちろん広く意見を聴取することは必要なことではありますが、今回の保護者等を対象にするアンケートについては、「検討委員会が実施するのではなく、市P連独自で実施していただいた後、代表委員から検討委員会で意見をいただくことが適切である」との判断となりました。このような提案ですが、いかがでしょうか。

(市P連委員) 私もそのような考えでいい。

(委員長) この委員会の目的は「現在の調理場の問題点の把握」し、「その解決のための老朽化した調理場の建てかえ方法の検討」であり、いろいろな立場からの意見書も委員宛てにいただいております。様々なご意見をいただくことも必要でしょう。ただこの委員会は、そのようなことも踏まえて、関係各位の委員さんに就任いただいております。当委員会では独自で、しかも公平で冷静な判断を行いたいと思います。

(事務局) また、アンケートは回収率に差異が生じること、検討委員会での審議内容（特に方式別のメリット・デメリット）を提示しないままのアンケート内容で、はたして公平なアンケートができるか、およびアンケート結果の数字だけが先走りすることなどが懸念されますので、検討委員会主体のアンケートの実施は、控えたほうがよいと思われまます。

(委員長) ではこの委員会でのアンケートの審議はしないということにいたします。

(委員) 校長会でも意見を伺いたいと思うが、「比較検討表」を提示してもいいか。

(事務局) 結構です。

(委員) 1月の市P連役員会で、この件について意見を求めるが、それまでに事務局と協議したい。

3) その他

(委員長) 今回で4回の審議を行いました。委員の皆さんにそれぞれ現在の感想や疑問に思っていることを伺いたいと思います。おひとかたずつ、どのようなことでも結構ですので述べていただきたいと思います。

(委員) 小学校長として、長年学校給食にお世話になってきた。そのおいしさは自校給食の恩恵と思っている。新居浜市はその点を大切にしてくれているし、これからは同様と思う。ただ、様々な現実も考え直さなければならない時期に来ているとも思う。限られた選択肢の中で、子どもたちの声を聞いてみたいし、それを踏まえて、責任をもって考えていきたいと思う。

(委員) 自校方式とセンター方式を両方経験している。どちらもいいところと悪いところ、まさしく話し合っているメリット・デメリットがあり、どちらかを選択するのは困難と感じている。小学校校長会での意見を聞いて、反映したいと思う。

(委員) センター方式しか経験していないが、安全性・味覚・温かさでも中学校として全く問題もなく、センター方式による不満も聞かない。ただ小学生の発達段

- 階で、給食の方法のどのようなことが子どもたちにとって一番いいのか、それには調理場の方式も関係するのか、などを中学校校長会でも意見を求めたいと思う。
- (委員) 市内の調理場訪問を通じて、古い調理場でも衛生管理に工夫していると安心した。調理員とのふれあいはやはり大切であると感じている。四国中央市は、センター方式が多いが、調理員等が子どもたちとどのように触れ合っているか、その点を重点に自分なりに調べて、考えていきたい。
- (委員) いずれにしても、建替えには多額の費用がかかることなので、細かいことまで言うが、子どもとお年寄りにはお金をかけてほしいと思う。これからもよりよい給食にしたいと思う。
- (委員) 単独調理場の場合には大規模改修の問題があり、ハード面についての検討に加われると思うが、この会ではそれだけでなく、それ以外の面からも考えていきたいと思う。
- (委員) 給食について、子どもにとって何が優先されるかを大切に考えたいと思うが、中長期的な学校の将来像、展望などを見据えながら、この問題にどのように対処すべきか、私の立場としての結論を出したいと思う。
- (委員) 実際の建設面では、これからの問題として上がってくると思うが、現在のところどちらが有利とは簡単には結論付けられず、どちらもそれぞれ大変なところがあると思う。ところで質問だが、「調理員と子どもたちのコミュニケーションが大切」とのことだが、どのように大切であり、どのように行われているか。
- (委員) 児童に給食を渡すとき、食べ終わった食器や残菜を返しに来たときに、調理員がそれぞれ子どもたちに直接、味や色合い、献立のバランス、残菜が多くなった理由などを聞くなどふれあいを大切にしている。そのことによって、今後の調理などを工夫する材料としたり、子どもの教育に生かすなどしており、食育につながっていると思う。
- (委員) 健康づくり、食育推進の担当している。生活習慣病は小学校低学年からの食生活が影響し、とても大切に考えなければならない。そのための給食のあり方を、この委員会を通して見極めたいと思う。本委員会の場合は小学生だが、これら世代へのアプローチの仕方をどのようにすればいいか、給食施設のあり方に反映したいと思う。
- (委員) 学校医の活動の中ではあまり給食とは関わりがないが、給食とアレルギーの関係については、給食方式別によってどのような影響があるかを考えている。今までの会の内容や個人的にいただいた要望書などでは、単独調理場のいいところだけ知らせていただいているが、センター方式のいいところも見ていきたいと思う。
- (委員) 歯科医師会でも、これを機会に給食のあり方について検討したい。新居浜市の小学生は全国的にみても、虫歯の発生率が高く、給食や他の方法で改善できないか、考えていきたい。
- (委員) 薬剤師として市内調理場の衛生管理のお手伝いをしているが、調理場の数は多いより少ないほうが、衛生管理が徹底できるのは当然であり、その点ではセンター方式がいいのではないかと思う。また、これからの国の財政を考えると、地方はもっと圧迫されるのは明白であり、自治体は用途の例外なしに歳費を抑える努力をするべきだと思う。
- (委員) 財政面では、その通りで普通に考えたら安価な方がいいに決まっているが、保護者としては子どものことを第一に考えたい。そのために、費用と子どもとを比べることとなるが、市P連として考えをまとめたい。
- (委員) 子どもが口にするものは、初めから終わりまで誰かが見守ってられるの

は自校方式だと思う。センター方式のメリットと自校式のメリットを合わせられるよう考えることが大切だと思う。

(委員) 中学校はセンター方式だが、各学校に配膳室が各学校にあり、また配膳員が2～3名配置されているため、給食が人の目を離れることはない。

(委員) 現在の小学校調理場は、配膳室自体はないが、給食を児童生徒が取りに来るまで調理員が付くようにしている。

(委員) それに加えて、小学校も上階にエレベータで運ぶので、異物混入の防止のため、教員が付くことになっている。

(委員) 先日、和食がユネスコの世界遺産に登録されたが、今まで以上に食育が注目され、給食に関しても教育的観点から推進していく必要がある。今後、和食を含める献立の多様性があらゆる方面から求められると思うが、そのようなことも重要になってくる。それらを調理場方式にどのように反映させるかとなれば、また違った問題になる。

(副委員長) 調理場方式の全国的な流れについて調べてみたが、どこも同じような問題について検討していた。小学生の内は、給食は単なる食事としてではなく、授業に連動させた教育の一部として大切な役割を担っている。ただそのことだけで、調理場方式を決めるのではなく、あらゆる面から考えていく必要があると感じる。自校方式の至らない点、センター方式の改善すべき点などを考えながら、公平に見ていきたい。

(委員) やはり保護者の意見、学校現場の意見を出していただきたい。

その時には、どちらの方式がいいということよりも、改善策などの前向きな意見を出していただきたい。

(委員長) 様々なご意見が出ましたが、第一に「食の安全」を念頭に入れ、ある程度の効率化の必要性、また教育面での重要性などをソフト面、ハード面から考察すべきと考えます。しかしやはり「子どもたちのために何がいいか」をいつも考えなければいけないと思います。中途半端な決定にならないよう、各委員さんの意見、また委員さんを通じて各団体の意見も出していただき、次回はある程度の方向性を話し合いたいと思います。

(委員) もしセンター方式とした場合、災害時における防災センターの機能を持たせる考えはないか。

(事務局) 当センターにも災害時に備蓄できないかとの市防災担当からの話がありましたが、倉庫にも限りがあり、また調理場の器具などは、単独・センター共に通常使える人がいません。公民館の方が現実的だと思います。防災センターの件は提言として承っておきます。

(事務局) 事務局より先進施設の研修のご提案ですが、皆様で時間を調整して研修を行うのはいかがでしょうか。(1名のみ「行きたい」と発言)

(委員) この委員で時間を調整するのは困難と思う。その代り、ビデオ視聴など研修に代わることができないか。

(事務局) では、事務局でビデオなどを用意するようにいたします。

(3) 閉会 委員長のあいさつ

本日は、活発なご意見ありがとうございました。次回までに皆様の会で意見をまとめられるところはお願いします。次回委員会は2月上旬を予定しております。